

発電所からのお知らせ

2023年6月20日

- 1, 2号機: 廃止措置中(第2段階)(2016年2月3日～)
 - ・「[浜岡原子力発電所1, 2号機 廃止措置状況\(2022年度第4四半期\)](#)」をご覧ください。
 - ・検査状況については、「[点検情報](#)」をご覧ください。
 - ・6月19日に、2号機の主復水器(注1)の解体作業に着手しました。解体作業にあたっては、安全確保を最優先に着実に進めてまいります。

- 3号機: 定期検査中(2010年11月29日～)・安全性向上対策実施中(地震・津波・重大事故対策等)
 - ・検査状況については、「[点検情報](#)」をご覧ください。

- 4号機: 定期検査中(2012年1月25日～)・安全性向上対策実施中(地震・津波・重大事故対策等)
 - ・検査状況については、「[点検情報](#)」をご覧ください。
 - ・当社は、2022年7月29日に4号機の高経年化技術評価(注2)を踏まえた長期施設管理方針(注3)に係る原子炉施設保安規定の変更認可申請書を原子力規制委員会に提出し、審査を受けています。(2022年7月29日お知らせ済み)
 - 本件について、一部の評価条件の見直しや記載の適正化等を実施したため、申請書の補正をおこない、2023年6月19日に原子力規制委員会に提出しました。
 - 今回の補正内容も含め、原子力規制委員会において、引き続き審査がおこなわれます。

- 5号機: 定期検査中(2012年3月22日～)・安全性向上対策実施中(地震・津波・重大事故対策等)
 - ・検査状況については、「[点検情報](#)」をご覧ください。
 - ・2023年6月15日に、国際原子力機関(IAEA)の査察が実施されました。これは、原子力が平和利用されていることを確認する目的でおこなわれているものです。

注1 主復水器とは、発電のためタービンを回し終えた蒸気を、再び水に戻すための冷却器のことです。

注2 高経年化技術評価とは、安全機能を有する機器・構造物に発生しているか、または発生する可能性があるすべての経年劣化事象の中から、高経年化対策上着目すべき経年劣化事象を抽出し、これに対する機器・構造物の健全性について評価をおこなうとともに、現状の施設管理が有効かどうかを確認し、必要に応じ、追加すべき保全策を抽出することです。今回の4号機の高経年化技術評価は、「[実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイド](#)」に基づき、冷温停止状態が維持されることを前提としています。運転を前提とした評価については、適切な時期に実施します。

注3 長期施設管理方針とは、高経年化技術評価の結果に基づき、運転を開始した日から30年目以降の10年間に実施すべき当該発電用原子炉施設についての施設管理に関する方針のことです。

以上